

**公益社団法人
NEXT VISION
2020年度事業計画**

2020.02.16

Our Mission

**情報障害者をゼロにする
失明しても失望をさせない**

視覚障害者をはじめとした
情報へのアクセス障害を持つ人々が
Well Beingな状態を取り戻すために
必要な情報を入手や検索できない状態を無くす

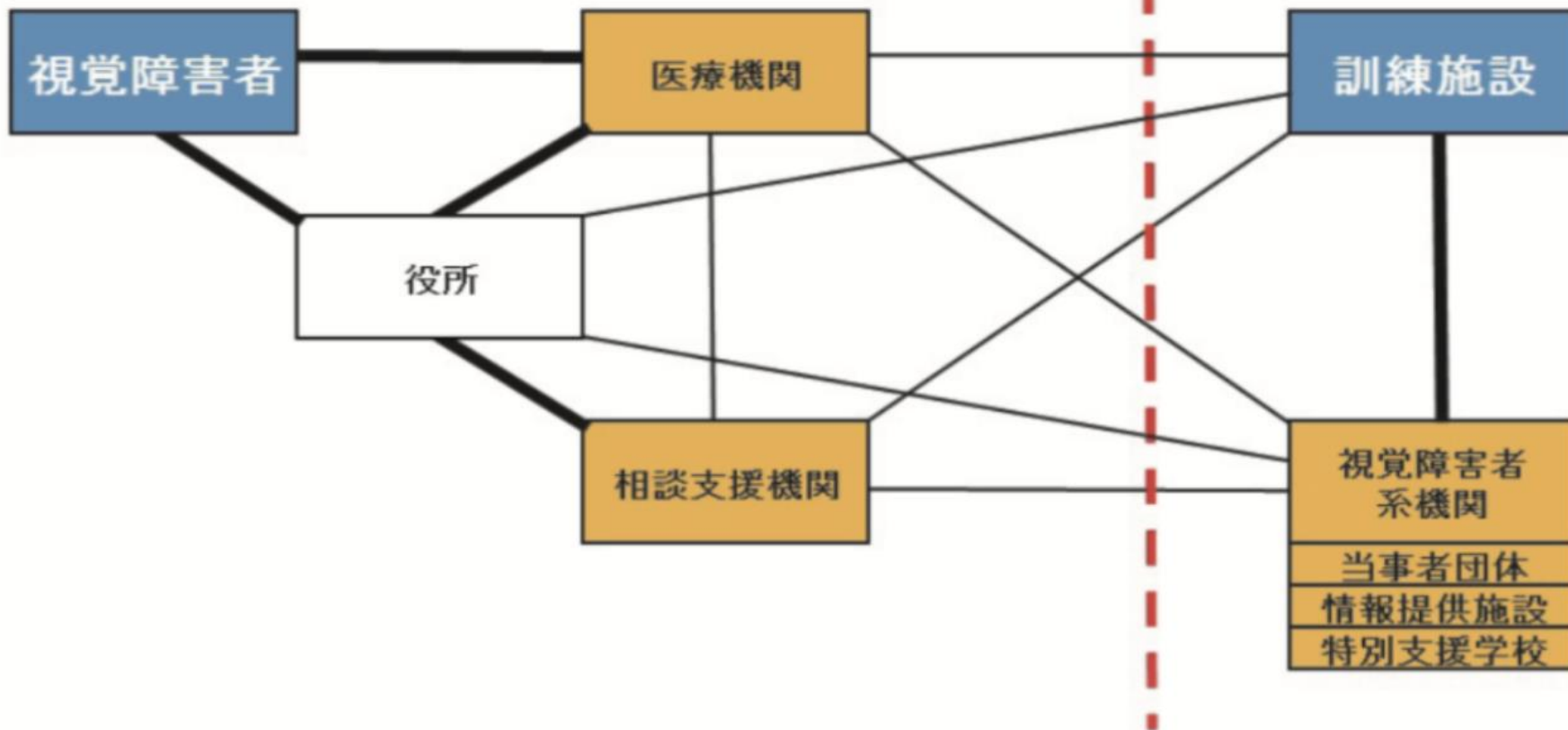
課題 支援環境

【視覚障害者を取り巻く環境 イメージ図】

視覚障害者が住む地域



視覚障害者が住む地域
から離れた地域



課題 支援環境

97%が連携の必要性あり

厚労省の報告によると組織連携の必要性を質問した調査

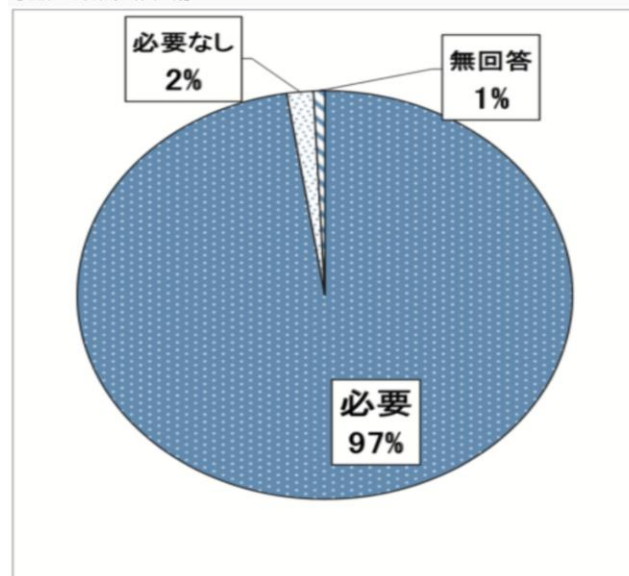
支援施設に**たどりつけない**

たどりつくまでの**時間を要す**

必要な情報を受け取れず**失望**

 **ワンスストップの包括的な情報提供の場**

【連携の必要性(全体平均)】



厚生労働省平成29年度障害者総合福祉推進事業視覚障害者が日常生活を送る上で必要な支援に関する調査研究事

課題 職場環境

企業：

障害者への就労提供義務
合理的配慮の提供義務

障害者雇用促進法

雇用が難しい障害種別：

視覚障害 79.9%

精神障害 70.9%

知的障害 58.7%

独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構 障害者職業総合センター 2008

 **視覚障害者の就労の機会・可能性の拡大**

市場

視覚障害者人口：約31.2万人

厚生労働省の調査（視覚障害の身体障害者手帳所持者数）

国内視覚障害者の人口：

2007年 約164万人（矯正0.5未満）

LV者 144万9千人、社会的失明者 18万
8千人（0.1未満）

2030年 200万人

日本眼科医会 2007年 推定値

 LV者、軽度視覚障害者への情報提供

視覚障害のコスト (日本,2007)

直接経済コスト: 実際に医療費(など)としてかかるもの

- 医療費 + 介護保険料 + 視覚関連研究費 = **1兆3,382億円**

間接経済コスト: 視覚障害による生産性の低下や社会によるケアのコスト

- 生産性低下(雇用率低下、欠勤、早死、課税収入減など) + 社会によるケア(公的年金、手当、視覚障害施設費用、補装具、地域ケアなど) + 死荷重(政府が税収減を補うために他に課税することによる市場の歪み、非効率分) = **1兆5,835億円**

疾病負担コスト: 視覚障害によるQOLの低下(個人の負担)

- DALYs × VSLY (Value of Statistical Life Year) = **5兆8,636億円**

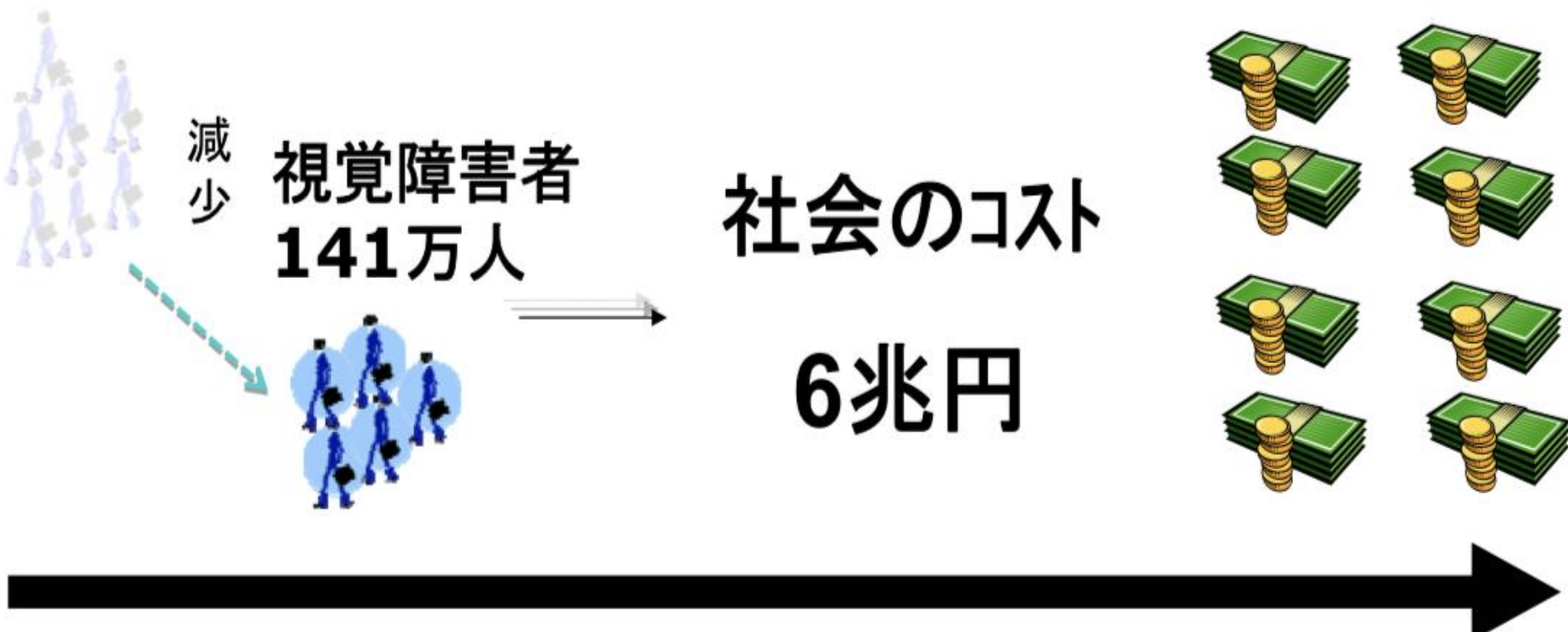
計 **8兆7,854億円**

日本眼科医会は2007年の推定値

2030年 (30%視覚障害者を減らすことができれば)

対策

- ・予防や早期診断に対する国民意識の向上
- ・より積極的な治療、ロービジョン・ケア
- ・新しい研究やテクノロジーの導入



継続的なシステム作り

・寄付者へのリターンの自動化・徹底

1) お願い（一枚スライド作成）

2) 感謝（Thank you mail）

3) 報告（成果報告＋お願い）

 支援者へ成果達成状況の情報提供

 継続支援への意欲維持の自動化

 スポット、継続者リスト作成

WB達成の目標値

- データ集め（成果の可視化）
NV版 Well being 評価

質問内容：

WB（生き生き度）調査：

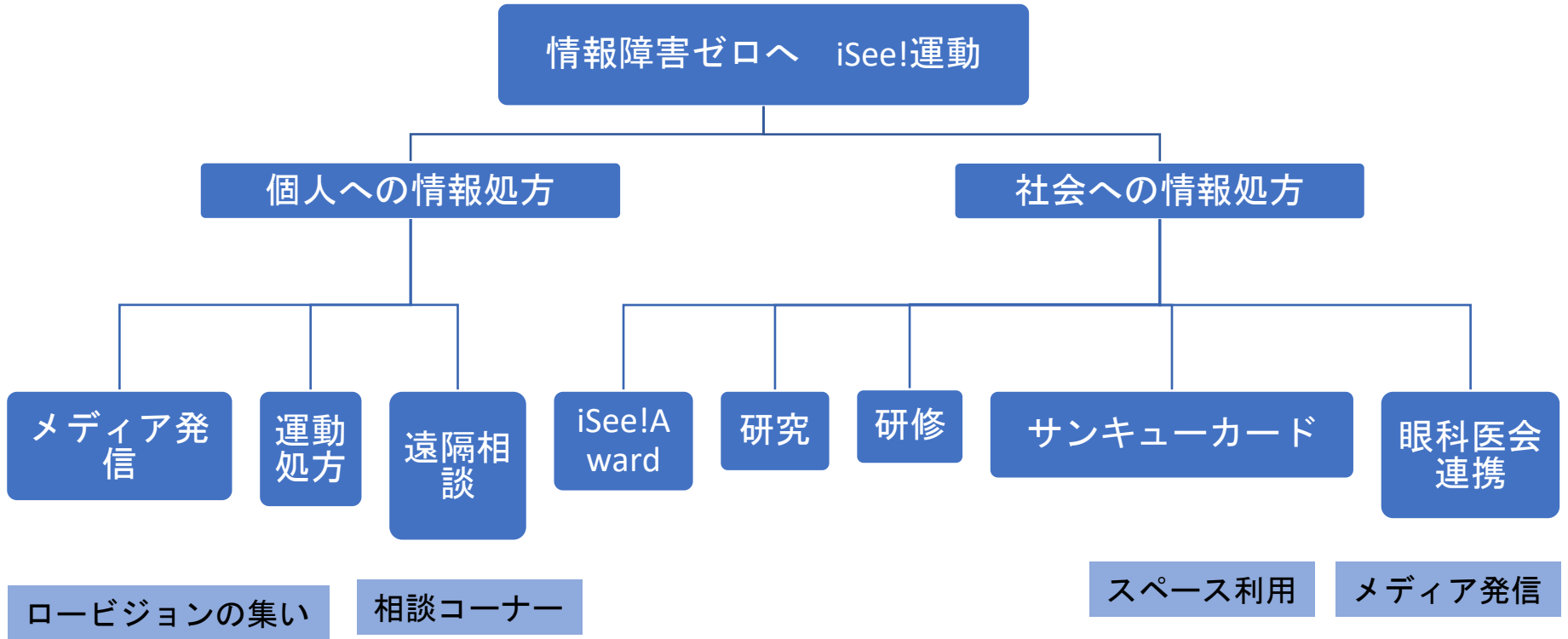
イベント参加前を50として

参加後の生き生き度：0－100で評価

氏名、世代（任意記載）

 **WB達成度によるPJ評価と優先順位検定**

現在



未来

情報障害ゼロへ iSee!運動

個人への情報処方

社会への情報処方

メディア発信

運動処方

遠隔相談

iSee!Award

研究

研修

サンキューカード

眼科医会連携

ロービジョンの集い

相談コーナー

スペース利用

メディア発信

ビジョパークチャンネル

■担当：三宅

■WHAT：遠隔での当事者、家族、支援者への情報提供

■WHO：FB閲覧可能な人

■WHY：地域性による情報格差の軽減し、全国の情報障害者を減らす

■WHEN：毎月1回、終了予定なし

■WHERE：ビジョパーク内及び外部貸会議室など

・ ■HOW：公式Facebookでのライブ配信および終了後動画アップ、著名人応援メッセージ、ICT情報、専門家対談等

■HOW MUCH:スタッフ対応15分 2000円、医者 2万円、場所3000円
合計2.5万円

■HOW MANY：12回以上/年

■HOW LONG（評価期間）：3ヶ月ごとの内容確認

成果目標：各動画の再生回数 500回以上

行動目標：最新のICT機器事情、当事者対談等多様な話題提供を、視聴者のフィードバックも踏まえて放送内容を検討する。HPや講演等での情報提供頻度強化

公1-二 当事者向け講座、セミナー事業 直接支援(個人への情報処方)
公2-三 講演、セミナー事業 間接支援(個人への情報処方)
研修

■担当：山田

■WHAT：より良く生きるために必要な「生きるチカラ」に気づき、学ぶ。

目が見えない・見えにくい方だけでなく、すべての方がいつも自分に自信を持ち、活躍できるように就労や教育の枠にとらわれず、スポーツ・アートなどさまざまな分野のセミナーを開催する。お一人お一人が苦手とすることを解消するためのリハビリテーションや社会参加に寄与するような有益な情報を発信する。

■WHO：すべての方

■WHY：情報ゼロの状態の軽減。幸福主義を目指し、自己肯定を促す。

■WHEN：12回/年、終了予定なし

■WHERE：ビジョンパークほか

■HOW：それぞれの分野の専門家に依頼し、セミナーを開催する。

参加費 個人：無料～5,000円、団体：30,000～

■HOW MUCH:収入合計¥1,075,000（内訳：参加費@1,000×5名×5回、@3,000×10名×1回、@5,000×30名×2回、@30,000×24回）

支出合計¥641,000（内訳：旅費120,000、雑費30,000、人件費376,000（講師B5,000×4h×5回、講師B5,000×4h×1回、講師A10,000×4h×2回、講師B5,000×4h×2回、運営C2,500×32h、運営D1,000×32h、運営E1,000×24人）、施設利用料115,000（⑤2,000×5回、④3,500×30回）

■HOW MANY：年間855人（内訳：5名×5回、10名×1回、30名×26回、100名×1回）

■HOW LONG（評価期間）：随時

成果目標：WBスコア改善 効果量0.8 情報を得ることで生きがいややりがいを発見し、自己肯定感を感じる。

行動目標：参加者が必要とする情報を探るためにSNSを活用する。

eパラスポーツ

■担当：三宅

■WHAT：VP内でのeスポーツの実施

■WHO：VPに訪問可能な人（当事者・健常者含む）

■WHY：eスポーツによる自己肯定感増進、コミュニケーション活性化、社会接続機会の増加による社会的・心理的回復

■WHEN：5月、7月（ロービジョン学会内）

■WHERE：ビジョンパーク内全エリア

■HOW：ファミコンミニやスーパーファミコン、ネオジオミニによる目隠し対戦式ゲーム

■HOW MUCH: ゲーム機・コントローラー購入費用 6万円

人権費 一般3名 3万円、医者1名 10万円 3時間、場所3000円 合計
19.3万円

■HOW MANY：年2回

■HOW LONG（評価期間）：年度毎の開催頻度の見直し

成果目標：参加者WBスコア改善 平均10ポイントup、眼科医新規会員
獲得10名

行動目標：開催までのFB等による告知、パラリンピアンとのコラボ

クライミング

■担当：三宅

■WHAT：アクティブエリアでの当事者への運動の機会処方

■WHO：アクティブエリアに訪問可能な人

■WHY：運動による健康増進、社会的・心理的回復

■WHEN：毎月？回

■WHERE：ビジョンパーク内アクティブエリア

■HOW：有料のクライミング体験の提供

■HOW MUCH: 収入：660,000（内訳：55,000×12か月）

支出：1,799,600（内訳：管理88,000円×12か月、

人件費52,800×12か月、保守点検11万）

場所代金 6時間、月39,000円 問い合わせ対応6000円 6h

潜在費用 4,500円

■HOW MANY：？回/月

■HOW LONG（評価期間）：半年度毎の開催頻度の見直し

成果目標：WBスコア改善 平均10ポイントup

行動目標：外来、ブラインドヨガ、体幹トレーニング等の別企画からの誘導を各月に実施

ロービジョンの集い

■担当：山田

■WHAT：当事者、家族、支援者への情報提供、情報交換

ロービジョン者の生活を多角的に支援するためロービジョン者を対象とした座談会、相談会を開催し、社会資源の活用方法や補助具等に関する各種情報提供、同じ症状に苦しむ患者同士のコミュニケーションの場の提供等に取り組む。

■WHO：視覚障害のある方、その家族、支援者など

各回10名程度

■WHY：情報ゼロの状態の軽減、相談機会の増加

■WHEN：毎月1回、終了予定なし

■WHERE：ビジョンパーク内及び外部貸会議室など

■HOW：さまざまなテーマで座談会形式による情報交換・共有を行う。参加費無料。

■HOW MUCH:支出合計 **¥246,000**（内訳：講師旅費30,000、雑費12,000、講師謝金60,000、**人件費114,000**（運営C2,500×3h×12回、運営D1,000×2h×12回）、**施設利用料30,000**（**②2,500×12回**））

■HOW MANY：12回/年

■HOW LONG（評価期間）：毎回

成果目標：WBスコア改善 **効果量0.5** **できないこと、不便があってもそれも含めて自分であることを知り、自己実現への一歩を踏み出してもらう。**

行動目標：最新の機器や方法についての情報を入手し、適時、必要とされる方へ情報を提供するために外部機関・団体との連携を密接に行う。

相談コーナーの運営

- 担当：山田
- WHAT： ■WHO：視覚障害のある方及びそのご家族など
- WHY：情報ゼロの状態の軽減、相談機会の増加、**対面の価値、施設間連携**
- WHEN：通年、終了予定なし
- WHERE：ビジョンパーク
- HOW：患者団体・支援機関など連携機関に協力を依頼し、ビジョンパークでアウトリーチ活動を行っていただく。相談無料。
- HOW MUCH:収入合計¥6,000,000（内訳：相談受託費6,000,000）
支出合計**¥3,324,000**（内訳：旅費360,000、雑費60,000、
人件費1,188,000（運営一般2,500×1h×264日、運営
D1,000×2h×264日、施設利用料1,716,000（**③6,500×264日**））
- HOW MANY：60人/月 年間720人
- HOW LONG（評価期間）：随時

成果目標：WBスコア改善 効果量0.8 情報を得ることで「できない」を「できる」に変えることができる方法、道具、サービスを知る。

行動目標：支援機関・団体間の連携を深め、情報の共有を図り、必要な情報が適時提供できるように情報提供の質を高める。（連携機関・団体の勉強会開催など）

遠隔相談

■担当：仲泊

■WHAT：遠隔支援サービス

一般眼科に通院する視覚障害者に対してテレビ電話を介して情報提供を行う。

■WHO：視覚障害のある方

■WHY：情報ゼロの状態の軽減、相談機会の増加

■WHEN：通年、30分／回

■WHERE：全国の高額寄付者の所属する眼科医療機関

■HOW：ロービジョンケア専門の眼科医と福祉専門家をテレビ電話で提供

■HOW MUCH：

収入合計：400万円（内訳：10万円の寄付（ふるさと納税）x 40件）

支出合計：120万円（内訳：1件30分あたり福祉専門家 5000円、医者 2万円
システム管理費5000円 合計3万円 x 40件）

■HOW MANY：40件/年

■HOW LONG（評価期間）：終了予定なし

成果目標：事後評価の満足度90%以上

行動目標：毎回、属性アンケート・内容チェック・事後評価アンケートを行う

■担当：仲泊

■WHAT：視覚ダイナミックレンジテストの有効性評価

遮光眼鏡の適正処方に資する簡易検査を開発するとともに、ヒトの明るさ知覚の特性の新たな切り口での評価を行い、眼疾患による変調の特性を明らかにする。

■WHO：視覚障害のある方

■WHY：羞明予防の適正な情報を提供するため

■WHEN：通年

■WHERE：阪大、新潟大、慈恵医大、獨協医大、神戸アイセンター病院

■HOW：各共同研究機関を統括し羞明のある患者のデータを収集し検討

■HOW MUCH：収入合計¥2,758,600（東海光学全額出資）

■HOW MANY：200件/終了予定までに

■HOW LONG（評価期間）：終了予定2020年8月31日まで

成果目標：特許出願、学会発表、学術雑誌に投稿

行動目標：すでに収集した99件のデータで論文を執筆中である。その結果を2020年7月の日本ロービジョン学会で報告する。頭痛との関連、遮光眼鏡の適合判定に使用するためのデータにはまだ不足しており、残りの期間でデータを揃える。

JR西日本あんしん社会財団助成研究

■担当：仲泊

■WHAT：視覚障害者の転落事故低減を目的とする電子歩行補助具の路面環境情報伝達法に関する研究

■WHO：視覚障害のある方

■WHY：空間情報提示装置により視覚障害者のホーム転落を防止する

■WHEN：通年

■WHERE：ビジョンパーク他

■HOW：九州工科大学との共同研究。前方の落ち込みと障害物を検知し知らせるとともに設定した方向を維持できるスマート白杖を開発する。

■HOW MUCH:収入合計¥1,790,000（JR西日本出資額）

支出合計¥1,794,000（内訳：消耗品費120,000、什器備品費
960,000、旅費交通費300,000、その他414,000）

スタッフ人件費

■HOW MANY：24人/期間終了までに

■HOW LONG（評価期間）：終了予定2020年3月31日（継続可能性あり）

成果目標：プロトタイプの完成、実証実験、学会発表、学術誌に投稿

行動目標：検知した信号を知らせる部分のプロトタイプができているので、それを用いて実験を企画。倫理審査通過次第に実験を施行する予定

公2-二 コンテスト事業 間接支援(個人への情報処方) isee! Working Awards 2020

■担当：和田

■WHAT：ロービジョン者の社会復帰を広く促進していくためには、ロービジョン者とそれを受け入れる社会の双方が、多くのロービジョン者が社会に復帰し、活躍している事実を知ることが第一と考えている。そのために、ロービジョン者の活躍事例を集め、コンテストを開催し、活躍事例の発表、評価を行い、特に優れた事例を選出する。また、ロービジョン者が就労するためのアイデアも募集し、優秀なアイデアについては事業化を支援する。

具体的には、ロービジョン者の雇用および起業による活躍事例及びアイデアを、ロービジョン者、雇用者、医療機関、福祉施設等から募集し、特に広く社会に認知させるべき事例とアイデアを選出する。また、選出された事例とアイデアは、ホームページや事例集の冊子で情報発信する。

■WHO：視覚障害者に関わる全ての市民

■WHY：視覚障害者に対する社会の理解が不十分で就労に困難さがあるため

■WHEN：応募期間：2020年7月～10月 発表式：2021年3月

■WHERE：ビジョンパーク

■HOW：（募集方法）ホームページや法人パンフレットで、目的、内容、募集方法について広く周知する。

（選考方法）医療、福祉、カウンセリングの各分野についての識見を有する専門家と

ロービジョン者等から構成される有識者会議を理事会決定の上設け、選考にあたる。

■HOW MUCH:支出合計 **¥1,498,000**（内訳：旅費 400,000 消耗什器備品 300,000 印刷製本 400,000

謝金 100,000 委託費 50,000

人件費248,000（運営C2,500×2h×30回、運営 D1,000×2h×20

回）、運営C2,500×6h×3回、運営

D1,000×4h×2回）、ボランティア 1,000×5人） ※小霜さんに相談→日本財団

■HOW MANY：20件以上の優秀な事例とアイデアを発表

■HOW LONG（評価期間）：終了予定なし

成果目標：コンテスト応募件数のup及び優秀事例紹介HPのカウンタースコアup

行動目標：視覚障害者の就労に関する社会の意識を高めるためにコンテストの募集を広く呼び掛け、優秀な事例とアイデアを選考し、表彰イベントで発表するとともにHPや就労事例集の配布により広く周知を図る。

サンキューカードを使った周知啓発

■担当：山田

■WHAT：サンキューカード制作と配布

ロービジョン者の移動を多角的に支援するために正しいガイドの仕方を一般の方に周知するとともに、一人でも多くの就労・就学に困っている

視覚障害のある方を見つけ、必要な情報につなげる活動を視覚障害者にお手伝いいただき、活躍の場を広げる。

■WHO：視覚障害のある方

■WHY：視覚障害者自身によるロービジョンについての認知拡大

■WHEN：通年、終了予定なし

■WHERE：全国

■HOW：患者団体・支援機関のほか、配布を希望する視覚障害者にサンキューカードを配布し、視覚障害者は支援してくれた方にサンキューカードを直接手渡す。無料。

■HOW MUCH:支出合計 **¥2,408,000**（内訳：印刷費2,200,000、送料60,000、雑費120,000、
人件費28,000（運営C2,500×10h、運営D1,000×30h））

■HOW MANY：80,000枚/年

■HOW LONG（評価期間）：50枚/人配布完了時

成果目標：**年間8万枚の配布** カードの配布による役割創出と自己肯定感を感じる

行動目標：サンキューカードそのものの認知拡大のため、SNS等を活用したPRを行う。また、全国に広げるため、視覚障害者に配布する機関・団体を20か所に増加する。

チーム特性

運営メンバーはiPS治療を行う臨床医としての高橋（眼科医）をはじめ、視覚障害者の社会研究の実践者である仲泊（眼科医）、就労現場や教育現場で多数の合理的配慮の実践事例を持つ三宅（眼科医・産業医）を中心に運営される。

また全盲の当事者でありテクノロジーの活用を実践する情報マスターがビジョンパークの運営スタッフであり、法人理事会は弁護士、柔道家・企業家、精神科医等は半数が当事者であり当事者の意見を反映させたプロジェクトの運営を可能としている。

ロービジョンセミナー

■担当：仲泊

■WHAT：視能訓練士を主対象にロービジョンケアに関する勉強会を開催する

ポイントマスター！ロービジョンケア外来ノートをテキストとして、執筆者を講師に迎えて決められた範囲の行間を埋める講義を行う。

■WHO：視能訓練士を中心としたすべての方

■WHY：一般眼科におけるロービジョンケア **関連情報を増やすため**

■WHEN：10回/年、1時間/回

■WHERE：ビジョンパークほか

■HOW：既存のテキストに基づき、範囲を特定して掘り下げる講演と質疑応答

参加費 個人：初回3000円（テキスト付）二回以降1000円

■HOW MUCH:

収入合計¥400,000（内訳：参加費1,000円×25名 3,000円×5名 x10回）

支出合計¥375,000（内訳：謝金50,000x6名、テキスト**2228円**x30冊、**雑費8160円**）

■HOW MANY：年間300人（内訳：30名x10回）

■HOW LONG（評価期間）：終了予定なし

成果目標：LV支援HPのカウンタースコア 毎月平均20ポイントup

行動目標：参加者が必要とする情報を探るためにLV支援HPを活用する。

公2-三 講演、セミナー事業 間接支援(個人への情報処方)
ロービジョン支援ホームページの運用

- 担当：仲泊・片山
 - WHAT：既存のロービジョン支援ホームページを買い上げ、運用する
<http://www.shikakuriha.net> の内容とリンクの更新
 - WHO：視覚障害に関心のある不特定多数の市民
 - WHY：情報ゼロの状態の軽減。
 - WHEN：24回/年
 - WHERE：WEB
 - HOW：内容を検討するワーキンググループによる話し合いを定期的に行う
 - HOW MUCH:
 - 収入合計：¥200,000（内訳：バナー収入）
 - 支出合計：¥200,000（内訳：HP維持改善費）
 - HOW MANY：1回程度/月
 - HOW LONG（評価期間）：終了予定なし
- 成果目標：LV支援HPのカウンタースコア 毎月平均20ポイントup
行動目標：参加者が必要とする情報を探るためにLV支援HPを活用する。

■担当：三宅

■WHAT：日本眼科医会会員への情報処方

■WHO：日本眼科医会会員

■WHY：眼科医のロービジョンケアの知識向上

■WHEN：2020年1月以降

■WHERE：日本眼科医会HP内

■HOW：HP内でのロービジョンケア初心者の眼科医への手引き作成

■HOW MUCH:作成人件費 月5時間 5万円相当

■HOW MANY：適宜

■HOW LONG（評価期間）：年度ごとの情報確認

成果目標：ダウンロード数 会員数の50%以上

行動目標：

■担当：三宅

■WHAT：VR体験で視覚障害者の困難さ、配慮を学ぶ

■WHO：健常者、支援者

■WHY：視覚障害者の困難さが見えにくく、理解されにくいため当事者の社会的、心理的回復を阻害因子となる

■WHEN：年数回

■WHERE：アクティブエリア

■HOW：VRによる当事者体験、その後合理的配慮研修

■HOW MUCH（1回あたり）： 収入 参加費 定員10名 3万円
支出 医者 2万円、場所3000円 合計2.5万円

■HOW MANY：年3回開催

■HOW LONG（評価期間）：年度毎の開催頻度の見直し

成果目標：参加者の多様性理解促進

行動目標：開催までのFB等による告知

ビジョパークを活かした情報発信

■担当：山田

■WHAT：ビジョパークスペース利用

法人格の区別なく、登録された団体・企業等が視覚障害者支援や情報発信に関連するイベントを行う際にビジョパークを使用する。

■WHO：登録された機関・団体

■WHY：情報ゼロの状態の軽減。

■WHEN：24回/年、終了予定なし

■WHERE：ビジョパーク

■HOW：登録団体・機関からの提案を受けつけ、内容を精査した上でビジョパークを有償

にて貸し出す。※別紙料金表参照

■HOW MUCH:収入合計¥240,000（内訳@5,000×12回、@30,000×6回）

支出合計¥321,000（内訳：雑費60,000、人件費210,000（運営C2,500×36h、運営D1,000×120h）施設利用料51,000（②2,500×12回、④3,500×6回））

■HOW MANY：10～30人程度/回 年間720人

■HOW LONG（評価期間）：随時

成果目標：WBスコア改善 効果量0.8 団体・企業との協力関係・連携の強化。

行動目標：登録団体・企業を誘致し、実際に使用する団体を増やす。（現在定期開催はヨガのみ）

法人事業（活動資金調達 寄付者・賛助会員等フォロー）
みんなで作るビジョンパーク会議

■担当：山田

■WHAT：活動報告、意見交換

NEXT VISIONの事業、ビジョンパークの運営を自分事としてとらえ、一体感を持って運営に参加する。

■WHO：寄附者・賛助会員・企業パートナー

■WHY：寄附者・賛助会員の主体性の向上、共創感の向上

■WHEN：2回/年、終了予定なし。

■WHERE：ビジョンパーク

■HOW：公式Facebookでのライブ配信および終了後動画アップ。スタッフの公開運営会議に参加。

■HOW MUCH:収入合計¥83,000,000（内訳 寄附金70,000,000、賛助会員会費
3,000,000、パートナー10,000,000）

支出合計¥3,608,500（内訳：①大感謝祭 飲食費50,000、送料50,000、

報告書印刷費 150,000、交通費（理事）150,000、

雑費30,000、人件費310,000（出演A10,000×3h×5名、出演B5,000×3h×1名、

運営C2,500×40h、運営D1,000×30h、運営E1,000×15名、施設利用料38,500

（①8,000+②6,500+③9,500+④9,500+⑤5,000×1回） 小計¥778,500

②スタッフ公開会議 交通費（理事）150,000、雑費20,000、人件費2,660,000

（A10,000×10h×12か月×2名、B5,000×10h×1名、運営C2,500×60h×1

名、運営D1,000×60h） 小計¥2,830,000

■HOW MANY：①100名、②30人 合計130人

■HOW LONG（評価期間）：随時

成果目標：WBスコア改善 効果量0.8 賛助会員・寄附等による継続支援

行動目標：寄附者・賛助会員の支援継続100%

優位性

神戸アイセンター構想は、最先端医療であるiPS細胞による再生医療を臨床医療、基礎研究を行う施設である。

医療特区に立地する市営病院であるため単一施設という高いアクセス性を確立して、臨床医療、基礎研究、情報支援にくわえて、製品や知財開発等も含めたこれまでの医療施設とは一線を画した協業プロジェクトを可能とする構造的利点を有している。

理事メンバー

代表理事 三宅養三 (眼科医)

元名古屋大学眼科学教室教授

理事 高橋政代 (眼科医)

VC

網膜再生医療研究開発プロジェクト 客員主管研究員

神戸アイセンター病院 非常勤医師

京都大学大学院 医学研究科 連携大学院講座 客員教授

京都大学 iPS細胞研究所 アドバイザー

理事 中邑賢龍

東京大学 先端科学技術研究センター 教授

理事 栗本康夫 (眼科医)

神戸アイセンター病院 院長

理化学研究所 網膜再生医療研究開発プロジェクト客員研究員

京都大学医学部 臨床教授

神戸大学医学部 臨床教授

理事 仲泊 聡 (眼科医)

理化学研究所 生命機能科学研究センター

網膜再生医療研究開発プロジェクト 研究員

神戸アイセンター病院 非常勤医師

東京慈恵会医科大学 眼科学講座 准教授

理事 大胡田誠 (弁護士・視覚障害者)

弁護士法人つくし総合法律事務所 東京事務所所属

理事 初瀬勇輔 (アスリート・視覚障害者)

株式会社ユニバーサルスタイル 代表取締役

NPO法人日本視覚障害者柔道連盟 理事

一般社団法人全日本テコンドー協会 理事

一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事

理事 三宅 琢 (産業医、眼科医、コンサルタント)

東京大学 未来ビジョン研究センター 客員研究員

東京大学 先端科学技術研究センター 客員研究員

東京医科大学 眼科学教室 兼任助教

産業医科大学 作業関連疾患予防学 訪問研究員

一般社団法人産業医ラウンジ 理事長

理事 福場 将太 (精神科医・視覚障害者)

美唄すずらんクリニック 副院長

理事 白根 雅子 (眼科医) ※2020年4月1日より就任予定

公益社団法人日本眼科医会 会長

しらね眼科 院長

顧問 金子 裕 (コンサルタント)

株式会社 Life Design Application 代表取締役

一般社団法人Artrates 代表理事

日本財団ボランティアサポートセンター アドバイザー